

1 研究題目

間質性肺炎合併肺癌の予後予測における各種バイオマーカーの有用性に関する後方視的検討

2 研究の対象

手術時の年齢が 20 歳以上の患者で、2012 年 1 月 1 日から 2017 年 12 月 31 日の間に岡山大学病院及び本研究への参加を表明した医療機関で間質性肺炎合併肺癌に対して肺切除術を施行した患者

3 研究目的

2012.1.1 から 2017.12.31 の間の間質性肺炎合併肺癌を対象とし肺切除術を施行した患者の臨床病理学的因子を後方視的に検討する。

間質性肺炎合併肺癌は、悪性腫瘍であるだけでなく術後に間質性肺炎の急性憎悪を来すリスクも有することから予後不良な疾患の一つであることが知られている。肺癌と間質性肺炎、両方の側面を併せて考慮した予後予測因子は依然示されておらず、そのようなバイオマーカーが指摘できれば有用と考える。

4 研究期間

倫理委員会承認後～2026 年 3 月 31 日

5 研究に用いる試料・情報の種類

患者基本情報、血液検査、画像検査（CT）、整理検査（肺機能検査）、腫瘍組織型、病期、術式、術後経過、生存情報、死因

6 研究責任者

外科：川真田 修